

# ほたる草

大阪市天王寺区東高津町12-10  
 大阪市ボランティア情報センター内  
**福祉と住環境を考える会「ふくてつく」**  
 発行責任者 代表：杉浦史郎  
 TEL 06-6765-4041  
 高齢者や障害者の住環境  
 改善を目指すボランティア  
 グループです  
 ホームページ <http://www.osakacity-vnet.or.jp/link/hukuteku/>



**7月定例学習会**  
 平成12年7月1日(土)  
 サロン鶴見  
 曾根 利弘氏

曾根さんは、昭和28年に大阪で生まれましたが、一才の時に受けた種痘の予防接種が原因で高熱を出し視力を失いました。幸い治療の結、完全な失明は避けられました。網膜色素変性症という疾患となり、現在の視力は0.025、0.03程度、その日の体調によつて、色の識や文字の判が困難で、また疲れると痛みを發して、益々見えにくくなります。

高校までは普校にいましたが、その後日本ライトハウス盲学校へ進み、今はマッサージ士として働いています。



## 壁を突き破つて人との出会い 弱視の兄ちゃん歩んできた道

曾根さんは、白杖(はくじょう)を持たないことにしています。それは視覚障害者だと気付かれたくないからです。白杖を持つていれば、確かに安全ですが、世の中にはごくわずかですが心ない人たちがいて、つらい思いをする事があるのです。具体的に挙げますと、ジロジロとみられたり、「若いのかかわいそうやね」という言葉。ひどいものでは「悪いことしたら、あんなおっちゃんみたいになるんよ」と子供にいう若いお母さん。「目が悪いのに電車なんか乗つてきて」という差発言は、まだまだ日本社会から消えてはいません。安全よりプライドを保ちたいというのが、白杖を持たない理由なのです。

今まで経験した恥ずかしきことは、エスカレーターや電車で手すりを持とうとして、人の手に触れてしまったり、男子トイレと女子トイレを間違つたりしたこと。実際、トイレの男女を知らずのはなかなか大変で、

誰かが出入りするまで待ち続けたり、中の話し声等の様子で判断します。声やぼんやり見える体型で男女の区はつける事が可能です。目の前に置いてあるコップを倒してしまふのにも困つてます。

恐いことは、歩道に乗り上げて止めてあるトラックです。自転車も怖いですが、ぶつかつても転倒する程度ですが、視覚障害者は白杖を持つていても、胸から上の障害物には無防備で、どうする事もできないのです。そしてなるべく、点字ブロックの上を歩くようにしています。そうすれば、人にぶつかる事はあつても電柱などにぶつかる心配はありません。

以前に、踏切で警報が鳴り、こけてしまった事がありました。すぐに、男性が助けてくれましたが、この時は死かと思ひました。猛スピードでつこんできた車にひかれかけた事もありました。いつもは音を頼りにしているのですが、道路工事の騒音などが邪魔をして困ります。でも結局は、ふと油断をしている時というのが、一番危ない時です。

視力障害を持つ人のアンケートによると、危険な場

所の第一は階段、第二が歩道に止められたトラック、第三は無灯火の自転車です。また、不便に感じるのは第一は駅の運賃表、第二は電車の発車を知らせる電光表示、第三は銀行のATMとなっています。

曾根さんは、今やサラリーといわれる程、あちこちの集会(サロン)に参加する日々ですが、はじめは一人では外出できない人でした。障害を持つていてはどうしても話題を暗くしてしまふ、またあれこれと氣遣つてやさしくされたり世話になる事が、かえつて負担となつて氣疲れする。そして疲れると、とたんに目の具合も悪くなる、といったあんなばい極力人との出会いを避けていました。

「障害は不便ではあつても不幸ではない」という言葉があります。やっぱり不幸だと思ひます。

けれども、やがてそんな生き方に疑問が生まれて人に会いたくなくなりました。そんな折、一緒に行くはずだった友人が都合になつて、長居のスポーツセンターへ一人で出かけ、バスと電車を乗り継いで、殆ど冒険に近い行脚でしたが、なんと

その経験がきっかけとなつて、市内7ヶ所のサロンへの参加と拡がりました。

ボランティア活動をしている人たちなら、普に理解してもらえて話もできるのではないかと思ひました。外へ出るなら、迷惑をかけたり嫌われたりする事も仕方ない事と悟り、壁を突き破らねば、こうしていろんな人と出会うこともできません。

これからも迷惑かも知れませんが、ふくてつくの皆さんよろしくおつきあいください。……という曾根さんでした。

曾根さんは、同じように視覚障害を持つて、そのために外出しようとしていない人の親から相談を受けて、何とか外へ連れ出そうというボランティア活動もしています。スポーツなら野球がサッカーをやつてみたい。...

曾根さん、素直な気持ちで支援したいと思つている市民もたくさんいます。氣遣いせず、もつと人の手引き、世話になつて下さい。白杖を持つて対する世間の偏見をなくすようみんな力を合わせましょう。

(記 中北 清)

**配食と入浴を制するものが  
地域医療を制す**  
 春山 満氏 講演  
 木村 多加緒

7月2日に広島市で(株)ハンディネットワーク社長の春山満氏の講演を聴きました。春山氏は67歳で発病した筋ジストロフィーのため、現在では四肢全廃で首から上しか動かない体ですが、福祉業界では顕著な活動をされている実業家です。以下講演の要点をお伝えします。

**春山氏の原点**  
 医療・福祉の分野で働く人に、人生の大先輩をお世話して高額な料金をいただいているという意識が全くない。ここに大きなビジネスチャンスがある。老いたから、不自由になつたからといって6000円の定食を食べなければならぬはずがない。2000円の幕の内、5000円のステーキ、6000円の定食から自由に選びたい。

筋ジストロフィー発症後4年目でつた国立刀根山病院で大きなビジネスチャンス

① 医療関係者の能天気な態度  
 待合室で受診を待つていると、PTらしき青年が、子どもか友達みたいな態度で「ここでまつときや、ちゃんと先生にいうたから」といつてそのまま行こうとした。確かに、不自由でサービスを求めているけれど、私は客。腹が立つて怒鳴つた。

② 医療機器屋  
 客の言うことを聞くのではなく、医者顔の顔をみていいなりになっている業者。誰が本当の客かを知らない。15万円の車椅子を、初めて車椅子に乗つた客の私に何のアドバイスもせず、ろくに聞きもせずに売りつけようとする。横柄な態度。皆は何らかの不安、恐怖心をもっている。私には怒らないだけ。

これからの医療福祉  
 イギリスでは資産三百万円以上あると、福祉の対象にはならない。日本は例外。医療と介護をリンクさせる質の高いサービスを提供することで地域ゾーン開発をしていくことが必要。この核になるのが病院である。医療サバイバルゲームの中

で生き残る鍵はここにある。病院がワンストップショッピング(一ヶ所で必要なものが全て揃う)の核になる。やつてもやらなくても保証される措置行政が介護保険で変わっていく。医療・特養を中心とする福祉法人の解体が始まる。客の逆指名が始まる。特養や療養型病棟群がいつまでも、何もしないでいっばいと思つてはダメ。介護保険は自由競争が原則。弱い客が賢いお客に転換する。春山氏は2001年3月ころとみている。地域から逆指名される病院や福祉施設になることが必要

在宅介護は病棟介護と違う。病棟の管理者を管理者にしても失敗する。商売と同じ生き物。訪問、デイケア、病院のパッケージングが必要。

これの決め手が配食サービスと入浴サービス。  
 配食サービスについて  
 春山氏は東京の赤帽組合をして、全国どこでも対応できるようなシステムを作つた。チャーター代月6万円。地域の給食業者と提携して630円〜680円で1病院に限定し、コアとなる医療機関を決めて展開す

る。この配食システムは車も服もそのコアとなる医療機関独自のものにする。

訪問介護・デイケアより信頼され、毎日情報が入つてくる。配食サービスは潜在的な介護需要、療養需要を事前にキャッチする最善の方法。細かいサインを出している予備軍をつかめる。

新聞チラシが白いほど効いた。京都の例では、60%の食の間は施設の職員で行い、50〜150食はアルバイトの女性で行い、300〜2000食は赤帽を使つた。2000のうち1000人は元気。介護キャンペーンをすると60%が取れることがわかつた。春山氏へのFeeは不要。赤帽組合からもらう。

配食システムだけでなく、地域医療ゾーン開発のコンサルをしていく。このシステムだけで利益をあげることが難しい。あくまで戦略と考えてほしい。

入浴サービスについて  
 風呂の充実は大変なポイント。なにより家族にアピールできる。入浴を求めてくる人は介護度が高い。この分野ではスライドインバスなどの商品を開発した。病院が実際に取り組む場

合の注意  
 病院がこれらのことをする場合、病棟から営業部隊に投入しても失敗する。るま湯に10年も浸かつていた人は営業の役に立たない。営業推進部を作つて、経営陣が信頼できる人をひとり置いて外部の営業精鋭部隊を投入するやり方がよい。

望まれていながら提供されていなかったサービスを提示する。世の中に受け入れられるためには、顕在化する前にこれが何かをとらえ、実行していくことが必要。

\* \* \*  
 「ふくてつく」が提供できるサービスは、望まれていながら今まで提供されていなかったサービスになつていく

でしようか。幸いボランティアなので、いろいろなトライができます。「ふくてつく」が提供できるサービスをもう一度考えてみてはいかがでしょうか。

\* \* \*  
 ※(株)ハンディネットワークインターナショナル大手医療法人の総合経営企画並びにコンサルティンク・福祉機器の開発。(バリアフリーテーブル、腰掛け型歩行訓練機、座高可変式リクライニング車椅子など)  
 春山氏の著書  
 「ごないしましよ、この寿命」  
 一世出版

「介護保険・何がどう変わるか」講談社現代新書  
 「僕にできないこと。僕にしかできないこと。」幻冬舎

**定例会のお知らせ**

10月  
 日時 10月7日(土) 午後1時 30分〜4時  
 場所 大阪市社会福祉センター 305会議室  
 内容 学習会「人のつながり、心のつながり」  
 講師 (財)大阪府青少年活動財団  
 参事 筒井 幹夫氏

11月  
 日時 11月4日(土) 午後1時 30分〜4時  
 場所 大阪市社会福祉センター  
 内容 未定



大阪メディアポータル(株)より富士のノートパソコンを戴きました。NPOの事務処理等に活用したいと考えています。

### パソコン寄贈

かねてから、ふくてつ々のNPO法人格取得については討議を重ね、大方の合意が成立した事をうけていよいよ認証申請に向けた準備が始まった。認証申請を担当することになった畑会員を中心に数回の委員会がもたれて、定款や申請書の細部に亘る検討が加えられ、9月例会に会員に諮る運びである。

### 活動懇談会・NPO委員会報告

高年福祉課やその委託を受けて調整役を務める「ゆにばつぷ」との協働という新しいスタイルで関わることになる。

既に2件の事例への取り組みが進行中であるが、事例を重ねながら当会の運用規定と豊中の制度との整合性を模索して行くことになっ

### 大阪市 高齢者住宅設備 改修費の助成

●対象者世帯 大阪市内に住所を有し、介護保険制度の居宅介護(支援)住宅改修費の支給を受ける方が属する世帯とします。

●対象工事 日常生活の利便を図るもので、介護保険制度の住宅改修に関する、介護保険制度の住宅改修の対象とならない工事が助成対象となります。

●助成額(消費税を含む) 所得階層 保険料段階  
・第一段階(生活保護世帯又は市民税世帯非課税かつ老齢福祉年金受給)・第二段階(市民税世帯非課税) Ⅱ 工事費用のうち

### \*活動予定\*

福祉住環境コーディネーター検定試験3級・2級直前講習会  
日時 3級 9月25日(水) 2級 9月26日(火) 10月24日(火)の間。どちらも全7回。  
午後6時30分〜8時30分  
場所 大阪国際福祉専門

学校 受講料 3級2万円・2級3万円(テキスト代)  
主催 ふくてつ々  
ボランティア・市民活動 フェスティバル  
内容 子ども木工教室  
日時 10月1日(日)  
場所 大阪城公園 太陽の広場  
主催 大阪市ボランティア情報センター

### リーフレットの紹介



大阪府建築士会の女性委員会シブルーライフ研究会がリーフレット「安心・安全・安らぎの家」を刊行しました。高齢者が安全に暮らすための住まいの工夫を紹介。どんな所が危険かを場所によって説明、解消方法を図入りで紹介しています。ご希望の方は社協岩本さんまでお申し込みください。一部五百円(会員の山本尚子さんより紹介)

### 障害者福祉の選択制

障害者(児)が福祉サービスを受ける際、どのような福祉施設や事業を利用するかを、利用者側が選択できるようにすること

### ことば・コトバ

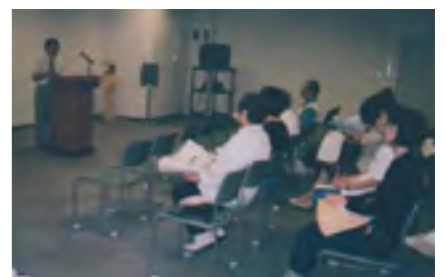
制度」だが、施行後は、利用者が施設などに直接申し込んで契約して利用する形になる。利用者は支払能力に応じて一部料金を負担、残りについては「支援費」として自治体が施設などの事業者を支払う。利用者がサービスを選ぼうためには、情報公開が前提となるため、社会福祉法人には、サービス内容や体制、料金などの情報を提供する努力規定を設けるほか、事業報告書や財務諸表の開示を義務づける。また利用者保護の観点から、事業者には苦情解決の責任があることを法律で明記し、都道府県社会福祉協議会に運営適正化委員会を設け、苦情相談を受け付けている。情報公開については、介護保険の対象である特養老人ホームなどにも適用される。(読売新聞より)



「介護保険」の現場は今…?

### 木工部会の期待は？ 日曜木工教室

大阪市ボランティア情報センター主催の日曜木工教室が、5月〜7月にかけて6日間の日程で行われました。2〜4月に第1回目の講座が持たれましたが、第2回目である今回は前回と違う路線でスタート、実技だけでなく、高齢者体験ボランティア活動についての懇談会といった内容も取り入れられました。



ATCでの説明

製作、ATCエイジレスセンターの見学、そして懇談会と全体を見てきて、期待していたにもかかわらず、ふくてつ々で木工のボランティアをやってくれそうな人はいませんでした。物作りをやっていたという人が大

### 子ども木工教室

連日の猛暑の中、8月28日(日) 大阪市平野公園に於いて、第25回平野区民まつりが盛大に開催されました。

部分を占めていたと思いきや、実技の会場は専門学校の半地下駐車場、暑い日には蒸し風呂のようになり、気分が悪くなって途中で帰った人もいました。照明も暗く、お天気の悪い時は手元が見えにくくなりま



ATCエイジレスセンター見学

の輝きを見ていると疲れもふつ飛び、大きな満足感を得ることができました。(記 有馬 定夫)

平野公園の設置テントは間口2mほどと狭く、奥の路にはみ出してブルーシートを屋根と床代わりに張り、昨年と同じように準備したが、この数名を受け入れるには限度があった。

### 疲れた。(記 新開 英夫)

久しぶりの子ども木工教室。この残暑の中、夏休みの宿題を兼ねての工作に無心に取り組む子ども、何を作るのか試案中の子ども。でも自作品に横足そうに……他の出店へ。残暑の汗をかいた。(記 八本 道夫)



で木工教室をやる。本日に暑中、子ども達は夢中でやっていた。私の姿を見て暑さをお察しください。会員ではありませんが木工部が時々指導を仰いでいるなりに構ってられない



さあ今から店開き。今日も残暑が厳しい……